

編集後記

今回の特集では、現行、そして 2020 年に更新が予定されている次期の本学情報基盤システムに望むこととして、利用者の皆様からいろいろご意見ご要望をいただきました。経費の必要なものについては、すぐに対応！とはいきませんが、センタースタッフのスキルと創意で改善できる点については、知恵を出し合って改善していきたいと思えます。

(葛西)

研究教育を含むあらゆるところで情報基盤システムの利用が必須になっている一方で、さまざまな情報セキュリティの脅威にもさらされています。次期情報基盤システムでは、よりよい環境整備が図られることが期待すると共に、自分自身も情報に翻弄されないように気をつけようと考えています。

(大橋)

8 年前に着任した頃、教育学部はまだ Wi-Fi 圏外、有線でも接続が不安定。音楽関係の授業中にウェブ上の資料を視聴することにはリスクがあり、すべて一旦ローカルに保存していました。今や、どの教室でも Wi-Fi 接続でストリーミングを快適に再生できるどころか、学生たちがそれぞれスマホで検索して、こちらが用意しなかったものまで聞かせ合っています。10 年後にはどうなっているのか想像もつきませんが、更なる環境整備に期待しつつ、自分が IT 落伍者にならないよう精進いたします。

(朝山)

農業の分野でも農業×IoT によるスマート農業が行われるようになってきています。しかしながら、IoT で「見える化」された環境データをしっかり読み切る目もまた必要になってきています。デジタルとアナログは、永遠の友達だなんて思っているのは小生のみでしょうね。ますます発達する情報技術を上手に利用していくために、総合情報処理センターがもつ機能をさらに充実させていくことが極めて重要だと思います。

(松山)

今号は「情報基盤システムに望むこと」のテーマで教員・学生からたくさんの方々のご意見を頂いています。コンピューター言語を全く理解していない小生にとって附属病院長のお話は非常に耳が痛いところです。といった横からおそらくは訓練用のフィッシングメールが届き、即座にゴミ箱に投げています。「君子危うきに近寄らず」なのでしょうが、不安な時にすぐに相談・対応をお願いできるご相談センターがあれば、ポーっと生きている小生は、悪い癖と知りつつ、つい考えてしまいます。

(下田)

一昔前までは不審な電話に要注意でしたが、不審メールに要注意、不審なサイトに要注意など、身の回りが不審だらけになってきました。最近では本物ってなんだろう・・・と思う有様です。結局真実は自分で直接見つけに行くしかないのかもしれませんが。不審なメールの送付主にならないように気を配る毎日です。

(野坂)

今年も例年並とは言えないお天気で推移してきましたが、異常が続くとこれが通常と錯覚してしまいます。メールも不要なものや怪しげなものをゴミ箱に直行する設定にしていると流行っていることに気が付かないでいることとなります。センターの更新でセキュリティ対策の強化が望まれているようですが、機械も万能ではないので今一度自分自身取っている対策を見直そうと思う今日このごろです。

(丹波)